

自治大卒業生の声

自治大学校卒業生（第1部課程第143期）

香川県総務部人事課 紙本 尚幸

編集者注：本稿は、自治大学校における研修の特長などについて、自治大学校の卒業生が記したものです。

1 はじめに

私は、令和6年10月22日から令和7年3月7日の間に行われた第1部課程第143期に研修生として参加しました。

研修を振り返りながら研修の特長や寮生活についてお話させていただきますので、今後、自治大学校の研修への参加を検討されている方の一助となれば幸いです。

2 派遣決定から入校まで

9月に入校決定となり、入校までに憲法・民法等の法制課目のe-Learning受講や演習の事前課題に取り組む必要がありました。e-Learning受講は、研修効果を高めるためのものですが、理系出身で体系的に法制課目の勉強をしていない私にとっては知らないことも多く、研修についていけるのかと不安になった反面、新しいことを知れるという楽しさがありました。また、演習の事前課題は、割り当てられたテーマについて、自身が所属する自治体の課題や施策を調べるものでした。私は、防災・事業承継・子ども施策の連携がテーマでしたが、いずれも携わったことのない分野であったことから、担当課の方々に県の現状や課題、取り組んでいる施策や事業を教えてもらいました。事前課題を通じて、香川県の現状を知りたい機会となりました。

3 研修前半（10月～12月）

研修前半は、憲法、民法、行政法、地方自治制度、地方公務員制度、地方税財政制度の

法制課目や政策法務、デザイン思考とDXやEBPMなどの公共政策課目、リーダーシップとマネジメント、DX時代の人材育成などの行政経営課目のほか、地方公共団体をめぐる最新の政策課題として、AI技術の活用、自治体DXの推進と地域社会のデジタル化、多文化共生と地域社会などの座学が中心でした。社会人となった今、これだけの課目を網羅的かつ集中的に学ぶ機会はなく、どの講義もその分野の第一線で活躍されている方の講義であったことから、興味深く講義を受講することができ、勉強になりました。

また、座学が中心でしたが、演習も少しずつ始まりました。研修では、様々な演習を通じて、「①自ら調べる②自ら考える③自ら判断する④その結果を説得力を持って伝える」ことを繰り返し学びます。前半は、行政法、民法、地方公務員制度の演習のほか、事例演習やデータ分析演習がありました。データ分析演習では、対象自治体の現状を分析し、課題を抽出したうえで、その課題に対する施策提案を行うことから、丁寧かつ的確な現状分析や課題抽出を行う必要がありました。ここが不十分だと、優れた施策提案でも、説得力に欠けると感じた演習となりました。

行政法の演習では、担当するテーマの最高裁判例を他の研修生に解説するとともに、自分たちの班がその判例を支持するか否かについて考えを述べるものでした。担当テーマが、行政権限の濫用であったことから、行政手続法等に則って手続きを行うことの重要性を再認識できました。

3 研修後半（1月～3月）

研修後半になると、政策立案演習、条例立

案演習、ディベート型演習、模擬講義などの演習課目が中心になりました。

その中でも、最も多くの研修時間を費やした政策立案演習は、実際に首長に提言することを想定して課題解決のための具体的な政策を策定するもので、第 143 期では 1 班 6 人で行いました。私が属した班では、交通をテーマとすることはすぐに決まりましたが、先進的に交通施策に取り組んでいる自治体や都市の研修生が多く、提案先自治体の選定、現状分析や課題の抽出に苦慮しました。過去には、顕在化している課題に対する政策提案が多い中、私たちは、将来直面すると思われる課題に対して政策提案することとしました。そのため試行錯誤の連続でしたが、班員同士が考えや意見をしっかり言い合えるなどチームワークが良かったこともあり、先進地視察やオンライン会議等を経て、なんとか締め切りまでに報告書をまとめ上げることができました。最終発表会を終え、新たな視点の政策立案を行えたという満足感と達成感を分かち合えたことは、何物にも代え難い経験となりました。

4 研修期間中の生活

第 143 期は、北は岩手県から南は大分県までの 36 人で、コロナ禍の期間を除いて最も少ない人数でした。

主な生活の場となった麗沢寮には、各フロアに談話室があり、日々全国の銘酒を飲みながら、仕事や趣味、地元の話などで盛り上がりました。また、隣接する昭和記念公園の周回をランニングしたり、自治大学校の運動場・体育館・トレーニングルームを利用したりと、日頃の運動不足を解消しました。さらに、天気の良い日には、雪化粧をした美しい富士山を見ることができました。

休日には、屋形船で墨田川下り、宇都宮餃子、山梨ワインツーリズム、高尾山登山、Bリーグオールスター観戦・・・と様々なとこ

ろに研修生と訪れました。また、お国の食自慢をする「味覚祭」では、各地の銘酒や米沢牛・松坂牛・馬刺しやます寿司等々を堪能でき、どこのお店に行くよりも贅沢なひと時を過ごせたのではないのでしょうか。

このように、講義や演習以外でも研修生同士の親交を深めることができ、有意義な研修となりました。

4 おわりに

約 4 月半という長期間、快く研修に送り出していただいた職場や家族をはじめとする周囲方々の理解・協力がなければ、この研修を受けることができませんでした。また、研修期間中は、自治大学校の校長をはじめとする職員の皆さんや講師の方々のおかげで、非常に充実した研修となりました。この場を借りて御礼申し上げます。

今後、研修に参加して得た知識や経験などを香川県職員として日々の業務に生かすとともに、研修生同士のつながりを大切にしていきたいと思います。



◀ 山梨ワインツーリズム



▶ 屋形船（隅田川）